



はじめに

当院の血液内科は、日本血液学会認定血液専門医研修施設、骨髄移植・臍帯血バンク移植認定施設として50床（内、無菌治療室22床）を有し、常時40～60人の入院患者に対応し、中国・四国地域でもトップクラスの規模を誇っております。また国立病院機構・中国地区血液疾患基幹病院として、岡山県全域からは勿論のこと香川県・広島県・兵庫県などからも広くご紹介頂いており、院内他科医師および

他職種（看護師、薬剤師、臨床検査技師など）と密接な連携を取りながらチーム医療を実践しております。現在は、日本血液学会認定血液専門医・指導医を含めた4名の常勤医師と血液志望内科専攻医3名の計7名で、外来患者と入院患者の診療を行っています。また急患にも対応できるように24時間のオンコール体制を組んでいます。

スタッフ紹介



角南 一貴
(1991年卒)
臨床研究部長



吉岡 尚徳
(2006年卒)
血液内科医長



三道 康永
(2010年卒)
血液内科医師



松田 真幸
(2012年卒)
血液内科医師



上野 雅也
(2019年卒)
血液内科志望
内科専攻医



近藤 瑛
(2019年卒)
血液内科志望
内科専攻医



大道 勇介
(2021年卒)
血液内科志望
内科専攻医

診療内容

白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄増殖性疾患などの造血器腫瘍を中心に、最新の知見に基づいた治療を提供しております。また、再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病などの疾患の診療も対応しております。週1回の全員による入院患者回診、カンファレンス、血液標本カンファレンスにより、症例毎に検討を重ね治療を決定しています。

1) 白血病

急性骨髄性白血病に対しては化学療法（シタラビン、ダウノマイシン、アザシチジンなど）、分子標的治療（ギルテリチニブ、キザルチニブ、ゲンツズマブ オゾガマイシン、ベネトクラックス）から造血幹細胞移植に至るまで対応しております。急性リンパ性白血病に対しては化学療法（シクロフォスファミド、ダウノルビシン、ビンクリスチンなど）、分子標的治療（イノズマブ オゾガマイシン、ブリナツモマブ）から造血幹細胞移植に至るまで対応しております。25歳以下のB細胞性白血病に対してはキメラ抗原受容体T細胞（CAR-T）療法の適

主要疾患別新規患者数(2022年度)

疾患名	症例数
急性骨髄性白血病	17
急性リンパ性白血病	1
慢性骨髄性白血病	2
慢性リンパ性白血病	1
悪性リンパ腫	73
多発性骨髄腫	19
骨髄異形成症候群	24
骨髄増殖性腫瘍	6
特発性血小板減少性紫斑病	11
再生不良性貧血	5
自己免疫性溶血性貧血	3

応があれば岡山大学へ紹介しております。慢性骨髄性白血病はチロシンキナーゼ阻害薬（イマチニブ、ニロチニブ、ダサチニブ、ボスチニブ、ボナチニブ）やSTAMP阻害薬（アシミニブ）による外来治療を行っております。慢性リンパ性白血病に対しては、標準的化学療法のほか、抗体医薬（アレムツズマブ、リツキシマブ、オビヌツズマブ）、分子標的薬（イブルチニブ、アカラブルチニブ、ベネトクラックス）の導入も行っております。

2) 骨髄異形成症候群

骨髄異形成症候群に関しては、従来の化学療法に加え、脱メチル化剤（アザシチジン）や-5q症候群に対するレナリドミドも積極的に使用しており、適応症例には造血幹細胞移植まで行っています。

3) 悪性リンパ腫

化学療法、抗体医薬（リツキシマブ、オビヌツズマブ）、放射線療法および造血幹細胞移植（自家および同種）を組み合わせた標準的治療を基本として、個々の病状に応じて最良と考えられる治療の提供を心掛けています。悪性リンパ腫の代表的な治療であるCHOP療法（またはR-CHOP療法）などは、初回入院治療を行い、2回目以降の治療は基本的に外来で行っています。びまん性大細胞型B細胞リンパ腫などCAR-T療法の適応症例は岡山大学へ紹介しております。

4) 多発性骨髄腫

多発性骨髄腫の診療に関しては、昭和50年代から力を入れており、日本でも有数の専門施設と認められ、近隣ならびに遠方からの紹介もあり多数の症例を診療しています。近年、多発性骨髄腫は新規薬剤の開発が活発であり、分子標的治療（ボルテゾミブ、カルフィルゾミブ、イキサゾミブ、レナリドミド、サリドマイド、ポマリドミド、パノビノスタット、エロツズマブ、ダラツムマブ、イスツキシマブ）を積極的に行っています。若年症例には自家造血幹細胞移植を標準治療として行っております。CAR-T療法が保険承認されましたが、当院は認定施設でないため、適応症例は岡山大学へ紹介しております。

5) 造血幹細胞移植

当院は骨髄バンクおよび臍帯血バンク認定施設であり、成人の造血幹細胞移植においては岡山県で一番早く導入した実績があります（平成3年に導入）。特に多発性骨髄腫における造血幹細胞移植に関しては開始時期および症例数ともに日本の先駆的な立場にあります。

6) その他

真性多血症、本態性血小板血症や骨髄線維症などの骨髄増殖性腫瘍、再生不良性貧血や特発性血小板減少性紫斑病などの良性血液疾患も診療を行っております。

臨床研究

岡山血液疾患研究グループ（OHSG）のメンバーとして、種々の臨床研究に協力しています。また国立病院機構血液グループ、日本成人白血病研究グループ（JALSG）、日本細胞移植研究会（JSCT）および西日本血液臨床研究グループ（W-JHS）などの多施設共同研究に積極的に参加し、

白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫を含めた血液疾患の最新治療の開発に努力しています。また多発性骨髄腫を中心に多くの血液疾患において新薬開発治験も取り扱っています（随時更新、問い合わせ要）。

医師教育

当院は日本血液学会認定血液専門医研修施設であり、多くの初期研修医、後期研修医、レジデントが血液疾患を学びに来ます。次世代を担う彼らたちが知識を身につけ、血液疾

患で苦しむ人達に満足な治療を提供できるように教育指導（学会発表、論文作成を含む）を行っています。

最後に

近年の高齢化に伴い、造血器腫瘍も増加傾向にあります。また治療は日進月歩であり、血液疾患分野についても例外ではなく、治療は複雑になり細分化されています。またそれに伴い患者さんの要求も高くなっており、それに対応できる病

院が必要と考えられます。当院の血液内科は、中国地区で血液疾患を扱う基幹病院として地域の近隣病院と密に連携し、さらに遠方からも来院される多くの患者さんの要求に応えるべく努力したいと思います。